



樽病だより

こころ

第1巻 第3号

発行日

平成18年8月

小樽病院広報委員会

電話25-1211

患者のみなさま方へ

病院長 鈴木隆

当院をご利用いただいている患者の皆さまに読まれてきた本紙は、今年初めに創刊して以来三号になりました。創刊号を発行し、第二号を発行して、長い待ち時間を解消するため本紙を読んでもいただき、その一方で予約外来制をいたしました。しかし他方で内科だけが予約外来制をせず、しかも医師たちが退職していくため診察室を減らして待ち時間を延ばし、おまけに「かかりつけ医」を紹介するという、長いあいだ当院に愛着をもって通ってこられた方々に背を向ける行為をして参りました。非力な院長の苦渋の決断といえは笑われるでしょうが、しかしもうこれ以上当院の医師に過酷な労働を強いられるわけにはいきませんでした。当院の待合室は、日本全国ほかの多くの病院の待合室と無関係ではありません。昨今の勤務医は、緊張を強いられる厳しい労働環境から逃れて開業に流れていくことは新聞紙上で報道され、見聞きされていることと存じます。その説明をここでいたしません。当院ではさらに、それに加えて五年後（平成二十三年）に新築するのかもしれないのか、五年先まで待てば新しい病院で市民の皆さまがたを診療できるのかどうか、十五年前から当院の老朽化とそれによる危険性、このための新病院建設が話題になり、いまここで五年先の可能性が消えること、多くの医師は去っていくことになるでしょう。医師にとって退職・転職はよくあることで簡単なことです。最近話題になっている例で個々の理由は異なりますが、病院が新しくても院長だけが残った本州の市民病院があったり、院長が辞職したあと三名の副院長が昇格を拒否している道内の市立病院があります。皮肉にも、やっと今秋ごろから患者の皆さま方に内科が予約外来体制をしいていく目途がたちました。しかし内科の院長だけが予約外来でできませんことを深くお詫び申し上げます。

五年後という確約が、いまここで崩れると、医師にとつて退職・転職はよくあることとなります。当院の他の職員をかばうために申し上げているではありません。市民の命と健康を守らなければならぬ市民病院を、崩壊から防ぐために申し上げます。新しい病院に向けて、市民の間でいくつかの意見の対立があつて（しかし、それらは誤解等で普通の考えをもっていらるなら理解し合えることと信じます）、今回もまた延期とするなら、新病院ができるのは誰が信じているでしょう。患者の皆さまは、これまでのように根気強く待たれるかもしれませんが、しかし医師派遣元の札幌の大学の教授はまた裏切られながらも信じて待つてくれるでしょうか。昔、当院に勤務したことのある某教授は「五年先までもつのだろうか」と私に語ったことを付け加えさせていただきます、みなさま方の確実な新病院建設にご支援をお願いする次第です。

夏と食中毒

健康のはなし

夏になると、さまざまな菌による食中毒事件が新聞紙上に掲載されます。どうして、夏に食中毒が増えるのでしょうか。

まず、菌の多くにとつて最も適した温度は37度付近です。つまり、私たちの体温に近いほど、菌も増殖しやすいといえます。ですから、零下にも達する冬に比べて30度を越す夏は、菌にとつても快適なのです。

食中毒は、菌に汚染された食品を食べることによつて生じます。主に、腸に炎症を生じて、腹痛、下痢といった症状を呈します。しかし、症状を引き起こすには、それなりの菌の数が要です。大腸菌O157では百個前後、サルモネラ菌では百万個前後の菌があつて初めて症状を呈するといわれています。つまり、夏は、冬に比べて菌が増殖しやすく食中毒を発生しやすい季節といえます。

ですから、原理的には菌数が増えなければ、食中毒は発生しません。予防は可能です。食中毒予防の3原則は、「菌をつけない・ふやさない・やつつける」です。清潔な食品と汚染されたものを混ぜないこと、食品を冷やして菌を増殖させないこと、加熱して菌を殺すことがこの季節には特に重要となります。

（小樽市保健所主幹 江原朗）



市立小樽病院基本理念

優しさと思いやり

- ・市民に信頼され、満足していただける、安全な病院を目指します
- ・市立病院としての誇りを持ち、地域に貢献できる病院を目指します
- ・患者さまと私たちが勇気と希望を共有できる病院を目指します

家庭でできる食中毒予防のポイント

- 1、食べ物を扱うとき
 - ・肉、魚、野菜は新鮮なものを選ぶ。
 - ・消費期限を確認する（賞味期限は美味しく食べられる期限、消費期限は腐敗や劣化が起ころう安全に食べられる期限）
- 2、保存するとき
 - ・冷蔵庫、冷凍庫は詰めすぎない
 - ・冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫はマイナス15℃以下を維持する
- 3、調理の下準備
 - ・冷凍したものは室温で解凍しない
 - ・生肉や魚を切ったまな板や包丁は一度洗剤でよく洗ってから他のものを切る
- 4、調理するとき
 - ・加熱の必要なものは十分加熱する
- 5、食事をするとき
 - ・食卓に着く前に手を洗つ
 - ・食品は原則として長く室温に放置しない

（医事課栄養管理係 高谷昌子）



検査科から
 診察時に使用した検査結果をお渡ししています

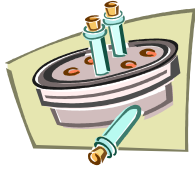
平成11年から外来受診の際、結果を見ながらの診療が可能なように診察前に採血し、検査を実施しています。それは医師の診療方針や治療が早期に開始されることにつながり、患者さまには検査結果を聞くための受診を無くし、通院のご負担軽減になればと思います。

さらに本年7月3日から「検査結果の提供」を始めました。これは、この春の医療保険の改定で新設された「外来迅速検体検査加算」に基づくものです。診察時に、当日の検査結果を患者さまご本人に書面でお渡しいたします。これは診療時使う簡易的な用紙ですので正式な報告書とは違いますが、検査結果を見る上で違いはありません。患者さまがデータ自己管理などにご利用できるかと思えます。

提供できる検査は委託検査や一部の検査を除きほとんど実施可能ですし、検査の基準値などを載せた「検査項目情報」を外来や採血室で配布していますので、結果解釈のご参考に「ご利用ください」。

検査科は「さらに速く・正確に」を心がけて努力していきますのでご理解をお願いします。

(検査科 鈴木正信)



市立病院新築準備室から

新病院建設に向けては、本年5月に建設地をウイングベイ山側の「築港114番」に特定しましたが、今後、築港地区の土地利用計画の変更や新病院の基本設計などの建設計画を進め、平成23年10月頃の開院を目指しています。

現在、築港地区の建設予定地を含む周辺地区を医療や高齢社会に対応した公共的な生活サービスなどを中心とした利用が可能となるよう土地利用計画の変更手続きに着手しており、今年秋ごろには病院が建てられる土地として都市計画が変更となる予定です。

また、実質的な新病院の事業開始となる基本設計は、今年の12月にその予算を市議会に諮り、来年3月には、基本設計に着手して、平成20年2月ごろの業務完了を目指しています。

基本設計は、一般の住宅を建てる場合と同様に、依頼主の意見や要望を設計者が聞き、病院を構成する各部屋の大きさや配置、動線などを検討し、建物の概略を設計図などに表すものです。

このため、基本設計着手前には、両病院において、二度の見直しを行った基本構想を基に、外来、病棟、救急などの部門ごとに新病院の施設内容に関する条件などの整理を行い、着手後も、設計者と部門ごとに具体的な検討を行うこととなります。

病院建築の成功の鍵は基本設計と言われておりますので、職員一丸となって取り組み、快適な医療環境の下で、より質の高い医療提供ができる病院の実現を目指していきます。

新病院の建設は、本市の厳しい財政状況の中、市にとって大きな財政負担となりますので、平成16年に基本構想の精査・検討を行った際、建設事業費の大幅

な圧縮を行いました。

現在、建設のための資金を借り入れるため、その返済も含めた新病院の収支計画を立て、小樽市全体の財政再建プランも示して、国や道と協議しております。建設地を特定したことにより、新たな土地取得費などの要素も加わりましたので、さらに、見直しを行い、事業費全体の縮減に努めていきます。

新病院の早期建設を望む多くの市民の方々の声に応えるため、基本設計や収支計画などの業務を着実に進め、一日も早い開院を目指していきます。

市立病院新築準備室

新機器

新たに設置された電子顕微鏡
 腎疾患などの病理診断が大幅に短縮されます。



患者さまに気持ちよく検査を受けていただけるよう、内視鏡室を新しく移転拡充いたしました。

新施設



セット健診実施のお知らせ

当院では、早朝に健康診断を実施しています。内容は次のとおりです。

種類 さわやか運河健診
 各がん検診

対象者

40歳以上の市民(職場で健診を受けられる方を除く、子宮がん検診は20歳以上)

時間 6時30分～8時30分
 予約 毎月初めの開院日から
 連絡先 医事係(内線306・307)

健診月日
9月21日(木)
10月20日(金)

市立病院野球部 全道大会へ
 第57回道南ブロック市立病院野球大会で準優勝を果たし、6年ぶりの全道大会出場を決めました。全道大会は8月27日室蘭市で開催の予定です。



潮まつり ねりこみ

高等看護学院と市立小樽病院・第二病院優思連合 総勢240名で参加しました。



樽病だより こころ

発行 市立小樽病院
 編集 市立小樽病院広報委員会
 次回発行は 10月予定です